

## 太宰治『惜別』試論 —〈先代萩〉と〈三民主義〉を視座として—

松田 忍

私はこれまで翻案作家としての太宰に着目し、作品と原典との比較研究を続けてきた。現在、あらゆる階級の日本人を虜にしてきた明治大正期の講談や講談本文化に対して関心を持っている。それらがいかに近代文学作家に影響を及ぼしたのか、解明していきたい。

すでに知られている通り、太宰は『惜別』（朝日新聞社刊、1945.9）を執筆するにあたって、小田嶽夫『魯迅伝』（筑摩書房、1941.3）、竹内好『東洋思想叢書 18 魯迅』（日本評論社、1944.12）を参考にしている。

従来の研究では見過ごされてきたが『惜別』と小田、竹内の共通点は魯迅と孫文を結びつけて論じた点にある。小田は「孫文は新支那の形を作った人であつた。それに比して魯迅は新支那の<sup>なかみ</sup>中實を作るために終生苦しんだ人」と両者を表現し、竹内は「孫文に『永遠の革命者』を見る場合の魯迅は、『永遠の革命者』を媒介として孫文と自己同一的な対立関係」と物語る。『惜別』では「僕は、ただ僕の一すぢに信じてゐる孫文の三民主義を、わかり易く民衆に教へて、民族の自覚をうながしてやりたい。」と魯迅の決意が語られている。

戦時下の日本では孫文に関する書物は数多く出版され、孫文やその学説について活発な議論が交わされた。例えば丸山眞男は高橋勇治『東洋思想叢書 17 孫文』（日本評論社、1944.8）の「書評」において「三民主義が何故に支那思想史上、国民大衆の<sup>内面的</sup>意識に支持された唯一のイデオロギーとなりえたか、（中略）まさに我々日本国民が主体的に取上げるべき問題なのだ。そのためにはもっと三民主義をその<sup>内側</sup>から、内面的に把握せねばならぬ。」と論じている。

本発表では孫文を補助線として、太宰が魯迅の実像を歪めてまで描こうとした『惜別』の主題について再考してみたい。また、これまで「忠義の一元論」を裏書きする演目として「先代萩」は捉えられてきたが、実は三民主義をわかり易く説明する為に、特別に選ばれた演目であった事を明らかにしたい。

太宰治『惜別』試論―〈先代萩〉と〈三民主義〉を視座として―

大阪公立大学 博士後期課程 松田忍

キーワード 三民主義、先代萩、啓蒙者魯迅 幻燈事件

## 一 はじめに

「魯迅の文章を無視して、作者の主観だけででっち上げた魯迅像―というより作者の自画像である」と竹内好は「花鳥風月」（「新日本文学」1956.10）の中で、『惜別』（朝日新聞社刊、1945.9）を酷評した。

近年の研究においても「中国人がイメージしている魯迅像と随分ギャップがある」（于曉平、吉永慎二郎「太宰治の『惜別』から見る魯迅」『秋田大学教育文化学部研究紀要』2002.3）、「完全な「太宰魯迅」を作り上げた」（冉秀「太宰治の『惜別』における魯迅像論考」『世界文学』2021.7）と「実在した魯迅との比較」<sup>1</sup>において論じられている。

本稿では孫文を補助線として、戦争末期の太宰が魯迅の実像を歪めてまでも描こうとした『惜別』の主題について再考してみたい。また、これまで「忠義の一元論」を裏書きする演目として「先代萩」は理解されてきたが、実は三民主義をわかり易く説明する為に、特別に選ばれた演目であることを明らかにしたい。

## 二 孫文と魯迅―三民主義

すでに知られている通り、太宰は『惜別』を執筆するにあたって、小田嶽夫『魯迅傳』（筑摩書房、1941.3）、竹内好『東洋思想叢書 18 魯迅』（日本評論社、1944.12）を参考している。従来の研究では見過ごされてきたが小田、竹内、太宰の共通点は魯迅と孫文を等価に並置している点にある。

たとえば小田は「孫文は新支那の形を作った人であつた。それに比して魯迅は新支那の中實を作るために終生苦しんだ人」「古き支那を根柢から覆さうとして身を挺した最も果敢な二人の勇士が、共に留學生出身であつた」と両者を表現し、竹内は「孫文に「永遠の革命者」を見る場合の魯迅は、「永遠の革命者」を媒介として孫文と自己同一的な 対立関係に立つのではないか、彼が必死に相争つたものは、孫文においてある彼自身の影でなかつたか」と物語る。そして『惜別』では「僕は、ただ僕の一すぢに信じてゐる孫文の三民主義を、わかり易く民衆に教へて、民族の自覚をうながしてやりたい」と魯迅の決意が語られる。三作品ともに、魯迅と孫文は交錯し、まるで二人は一人のような特徴的な描き方である。

戦時下の日本において孫文は「衆目の集まる人物となっていた。とりわけ第二次・第三次近衛声明が発せられた後の第七四回帝国議会の議場において、孫文およびその学説をめぐ

<sup>1</sup> 神谷忠孝氏は「『惜別』」（東郷克美編『太宰治 作品論』双文社、1974）の中で「『惜別』を実在した魯迅との比較において論じ、批判することはあまり意味がないのである。竹内好が強く批判するのは当然だとしても、一個の文学作品として読むことが太宰治の真意に即している」と述べている。

る議論が展開されたことを契機に、これ以後孫文をめぐる議論は活発化した。例えば、昭和十四年以後に」<sup>2</sup>『孫文全集』全七巻（外務省調査部訳、第一公論社、1939.9～1940.12）、『孫文の生涯と国民革命』（河野密著、日本放送出版協会、1940.2）、『孫文思想の研究』（石井寿夫著、目黒書店、1943.2）、『孫文』（高橋勇治著、日本評論社、1944.8）等数多く出版された。

### 三 啓蒙者魯迅／精神の改革—三民主義

清国留学生たちと周さんは「三民主義」の「熱烈な信奉者」であった。しかし両者の考え方には差異があり、『惜別』ではその対比を描くことで「三民主義」の内側を物語っている。

清国留学生たちの「大半はこの同盟会の黨員」で「打清興漢の氣勢を挙げ、学業も何も投げ棄ててしまつてゐる有様」であった。「口をひらけば三民主義、三民主義の連発」で「直接革命運動に身を投ずる者も少なくなかつた」。

それに対して周さんは「あの人たちと一緒に、革命運動に直接に身を投じて」おらず、「革命の黨員ではな」かった。周さんと「留日学生たち」の「究極の目標は同じであつても」、「愛国の至情の発現は、多種多様であるべきだ。必ずしもいますぐ政治の直接行動に身を投ずる必要は無い。自分は、いまもつと勉強しなければならぬ」と考えていた。

周さんにとって、「念願は一つしか無い。曰く、同胞の新生である。民衆の教化なくして、何の改革ぞや、維新ぞや」という信念のもと、「民衆に対する初歩教育のつもりで文芸に着目」し、「ただ僕の一すぢに信じてゐる孫文の三民主義を、わかり易く民衆に教へて、民族の自覚をうながし」て「民衆の精神の改革」を行うこと、それだけが「あの人たちの仲間としてわづかでもお役に立ち得るのは、そんな極めて低い仕事に於いてだけだ」と述べている。

周さんの「民衆の精神の改革」という考え方は、孫文の「根本的な信念」<sup>3</sup>を表すものである。孫文の「革命の成功は主義の宣傳による」（『孫文全集』第五巻 第一公論社 1940）によれば「我黨の三民主義は、即ち無形の中に人民の思想を改造するものである」「人民の舊思想を除去して別に新しい思想に取換へる。これが即ち國家の基礎の革新である」と書かれており、『惜別』の魯迅の思想と孫文の思想が重なり合っている。

### 四 先代萩—三民主義と儒教

一九四四年十二月、太宰は医専時代の魯迅を調査する為に仙台を訪れている。太宰の取材

---

<sup>2</sup> 坂本健蔵「戦時下の「孫文」論と日本外交のアジア主義」（『辛亥革一〇〇年と日本』早稲田出版、2011.9）

<sup>3</sup> 「孫文と政治教育」（『丸山眞男集 別集 第一巻』岩波書店、2014.12）では「支那革命の最大の課題というものは民衆の意識の改造」であり、「精神革命がともなった革命にしてはじめて本当の革命であるということが、孫文の根本的な信念であったのではないか」と書いている。

メモ（二百字詰原稿用紙十五枚）には「太閤記大佛供養の通し」「網模様玉菊燈籠」「血染のさくら」の演目が書かれていた。しかし「先代萩」の記載はなかった。

なぜ「先代萩」が『惜別』で描かれたのか。渥美孝子氏は「『惜別』と『大魯迅全集』」（『太宰治研究』2017.6）の中で、理由を次のように述べている。「支那の「孝」は日本の「忠」と対置させられ、周さんは日本の「忠」に感心」して、中国の「孝一色で塗りつぶさうとする傾向」の「民の倫理」を憂うのである。周さんが松島座で涙した芝居が「先代萩」であったことも、「日本の思想は忠に統一されているのですから、神仙も二十四孝も不要なのです。忠がそのまま孝行です」という、「忠義の一元論」を裏書きするものとして選ばれた」という。確かに首肯できる指摘である。しかしなぜ魯迅に日本の「忠」を礼賛させたのか。「太宰が、自らの愛国感情を魯迅に投影」<sup>4</sup>させる為なのだろうか。

前章にて魯迅と孫文の思想の重なりを指摘したが、孫文の「民族地位恢復策如何一結論」（『孫文全集』第一巻 第一公論社 1939）によれば「余は數日前田舎へ行つたが、疲れたので、一祠堂に参詣した序に奥まつた一室で休息した。そのとき部室の右側に一つの孝の字があり左側には有るべきところに字がない。余は必ず以前には忠と言ふ字があったのであらうと考へた次第であつた（中略）従前の忠と云ふ字は、君主に對する所謂忠君であつて、今民国には君主がいらないから忠の字は使はなくてもよいと考へて居るに違ひない。だから忠の字を毀して了つたのであらう。然しこの理論は實に誤解である（中略）忠と言ふ善良なる道德はやはり保存しなければならぬ」と孫文は「孝の一色で塗りつぶさうとする傾向」の中国の「民の論理」を憂い「忠」の必要性を強調している。つまり『惜別』の魯迅は孫文の思想を代弁する事で三民主義の内側を説明しようとした。

丸山眞男氏は「孫文と政治教育」（前掲）の中で「三民主義というものは儒教のネガチオン〔Negation 否定〕である。本質的にそういう点に三民主義の特色があると私は思います。しかしながら孫文は、とにかく儒教は支那の古来からのイデオロギーとして非常に鞏固でありますから、儒教的な範疇をできるだけ利用して三民主義を説明していくことは、三民主義の理解を非常に容易にする方法であるという見地から、三民主義を説明するのにさかんに儒教的な範疇を用いた」と指摘する。

つまり孫文は儒教を利用し、三民主義を民衆にわかり易く伝えたが、太宰の『惜別』では三民主義を民衆にわかり易く説明するために「先代萩」が選ばれたのであった。

## 五 先代萩／幻燈事件—三民主義

「これほど知られた、お家騒動はない。この事件が芝居になったのが、江戸大阪で七十余種類もある。講談も大いに行なわれて、恐らく百以上の伊達騒動がある」<sup>5</sup>といわれるほど「先代萩」は誰もが知っている話である。この事件は実説のため江戸時代を鎌倉時代に、政

<sup>4</sup> 冉秀「太宰治の『惜別』における魯迅像論考」（前掲）

<sup>5</sup> 佐野孝「名講談解題」（『定本講談名作全集 別巻』講談社、1971.2）

岡を浅岡などに変更して、事件を匂わしながら上演されてきた。

永吉雅夫氏は「書くこと／読まれること（下）一太宰治『惜別』の場合」（『追手門学院大学教職課程年報』2019.3）の中で、「先代萩」は「毒に苦しみ且つ刺し殺されるわが子を平然と見ている母親、そんな場面を含む伊達藩の不名誉な騒動を芝居として見物している仙台市民、それを観客の一人として観察している田中、という構造」、一方「幻燈事件」は「ロシアのスパイとして処刑される中国人を取り巻いて見物している同胞、そんな日本人による処刑の映像を見て嘔したてている仙台医専の学生、その中にまじって全体を見ている周さん、という構図」、つまり「先代萩」と「幻燈事件」は「パラレル」になっていると言う。

本稿では「先代萩」の捉え方が「維新後」と「明治の中ごろ」で変化した点に着目しながら、「先代萩」と「幻燈事件」の「パラレル」の意味を考察してみたい。

「維新後」（過去）の日本人は「この芝居全体の仕組みは、どうも伊達家の名誉を毀損するやうに出来てゐる、撤回せよ、と嚴重な抗議を申し込ん」だ。しかし「明治の中ごろ」（現在）の日本人は「どこの国の事件だかまるで無関心、ふつうのあはれなお芝居として、みんな静かに見物してゐるだけといふやうな有様」で、「政岡」が「とは言ふものの、かはいやな」と誰もいない所で「忠」の哀しみを吐露するのを、「日本の人は、それを見て皆泣いてゐ」るだけであった。

一方、「幻燈事件」では中国の民衆は、処刑される同胞のスパイの「まはりに集つてぼんやりそれを見物してゐる」だけであった。「あれが現在の支那の民衆の表情です」「僕は、すぐ帰国します。あれを見たら、じつとして居られなくなりました」と、周さんは未来の中国の民衆のために、「孫文の三民主義」による「国民性の改善」「精神の革新」に乗り出す。これが中国と日本の決定的な違いである。

田中和男「丸山真男における中国」（『龍谷大学国際センター研究年報』2004・3）の言葉を借りれば「「自発的な決断を通しての国家への道」は中国においてこそ現実化しているかのようである。（中略）「日本国民の近代国家形成能力」は喪失されたがゆえに、中国での三民主義の謎を「日本国民が主体的に取り上げ」なければならない」と述べている。

戦争末期の太宰が魯迅像を歪めてまでも書きたかったもの、それは歪曲されていない孫文の三民主義であった。『惜別』では「先代萩」を利用し、魯迅が孫文の思想を代弁しながら、中国の民衆を教化し、中国の社会構造を刷新しようと「精神の改革」に乗り出す魯迅像を描いた。あたかも「社会講談」<sup>6</sup>を彷彿させるような作品であったといえよう。

---

<sup>6</sup> 奥野久美子氏は「博文館長篇講談と大正期文壇—荒畑寒村の社会講談を例に—」（『國語國文』2008.9→『芥川作品の方法—紫檀の机から—』和泉書院、2009.7）の中で「社会講談」とは「講談という身近な材を使って民衆を教化し、当時盛んに叫ばれていた社会構造を推進しようというもの」「誰もが知っている筋をそのままに、心理描写や語り手による解説による新たな思想・解釈を打ち出すという方法は、大正期歴史小説の特徴を備えている」と述べている。